

助成年度：平成 10 年度

[所属] 姫路工業大学 自然環境科学研究所
[役職] 教授
[氏名] 中西 明德 (他計 6 名)

[課題]

マレーシア・サバ州タビン川流域における熱帯林生物多様性維持機構と 保全に関する基礎調査

[内容]

マレーシア国サバ州の各地、タビン野生生物保護区、クリアス・ビンスル泥炭湿地林マリアウベイスン自然保護区、で昆虫、クモ、植物に関するインベントリー調査を行った。

調査の解析がまだ十分には行われていないが、次のような成果を得ている。

昆虫：チョウ類：タビン野生生物保護区から 24 属 26 種のチョウが記録されているが、今回目撃のみの 18 種を含み 242 種が記録された。日本全土に土着するチョウ類は 233 種を数えるが、これを越える種数が僅か 6km ほどの道のりで記録された訳で、生物多様性の高さを明確に出来た。アリ類：タビンから 8 亜科、46 属、122 種のアリが採集された。トンボ類：タビンから 9 科 25 種のトンボ類が採集された。この内 10 種はボルネオ特産種であった。また、*Euphaea* と *Rhinagrion* 属の 2 種は新種の可能性が高く、現在研究をすすめている。クモ：タビンにおいて 14 科、24 科、62 種の真性クモ類を得た。この内、ヒメグモ科の 1 種とユウレイグモの 1 種は社会性クモと考えられるが、東南アジアから最初の記録と思われる。植物：維管束植物：タビンでは花、果実のついた 161 個体が採集された。これらは 44 科、88 属に属することが確認された。材標本：15 科 55 点の材をタビンで採集し、現在組織を観察中である。花粉：昆虫の体に付着している花粉から、訪花植物を推定する基礎資料とするため 15 科、18 属の植物から 25 サンプルを収集した。・淡水藻類：淡水紅藻のカワモズク的一种 *Batrachospermum gombakense* がタビン川の水系で発見された。ボルネオから初記録である。マリアウベイスンのマイト川でも淡水紅藻カワモズク的一种が発見された。これも *Batrachospermum* 属の新種である可能性が高く、現在タイプ標本との比較を試みている。蘚苔類：マリアウベイスンにおいて 210 点の蘚苔類標本を得た。苔類の *Arachniopsis major* Herz は、サラワク州からただ一回の報告があるだけであり、世界で 2 番目の産地となる。蘚類は 37 属 72 種あったが、新種と思われる 2 種が含まれる。